

小玉川水電の 重役決定

小玉川水力電氣株式會社は募集株式一萬四千株のうち一萬九百七十五株の應募があり事業開始の立總會を開いたが、未拂株式が七百株あるので資本金七十萬圓を五十萬圓に減資する事となり重役を左の如く選舉した。

▲取締役栗原欣次郎、野崎滿藏、馬目雄次郎、草野七三三之助、萩原申八、濱口巖、加藤丈夫、菊地徳太郎▲監査役渡邊繁太郎、大和田安太郎、余興七十郎▲常任監査役濱口巖▲社長栗原欣次郎

更生した 平旅館組合

平町旅館組合長は從來水竹柳助氏であつたがこの程の總會において役員の改選を行ひ會長に吉屋支店酒井清氏、副會長に藤屋本店武田元之助氏當選就任幹部以下もそれ〴〵改正、規約の草案中である。

勿來校で 學神祭

石城郡勿來小學校では例年十一月廿五日を學神祭と稱して同町北野神社に職員生徒一同で祭典を擧げつゝあるが本年は當日及翌二十六日の兩日農産物品評會を開催する筈である。

懷中に兇器 平驛頭の曲者

十四日午前九時頃平驛待合室で舉動不審者を平署員が発見取調したところ銀劍時計五個、合鍵威嚇してゐた。

鑊、鑿その他の兇器を所持し居り宮城縣柴田郡村田村生れ目下住所不定村上三郎(三五)といひ口を噤して語らないが同署では重大犯人と認め拘留の上各地に照會中である。

御大典で 色街賑はふ

石城地方は十日以來御大典氣分に酔つてゐるが、殊に平町における花柳界は活氣溢し數年來見たことのない景氣を發揮してゐるが、活動常設の如きは毎夜大入りの盛況、又鎌田遊廓の如きも一日平均八十名の登樓客で混雑を來し、新田町方面の大小三十人の藝妓も大重で活躍し毎夜平均二十五本以上の平均玉代を稼ぎ出してゐる、これ等五代並に遊廓方面の遊興に費消された額は十日より十三日まで四日間で約二萬圓と稱され花街は十年振りの景氣であるが一方市内における各戸各町の裝飾に費された額はザツト五萬圓見當である。

社告
明十六日大祭祭につき本紙休刊仕候

警城新聞社
警城時報社

貧者の一燈

植田町役場使丁高木政次(五四)氏は勤続四十餘年に達したが今回御大典記念として植田署内人事相談所に基本金として金一圓の寄附を申出たが貧者の一燈を後援するは奇篤な行為に感服してゐた。

鳥節御料理
うなぎ
蒲焼
平町南町平館隣り
電話四二四番

當る十六日より上映
松竹下加茂特作品
美男市川松之助熱演
島原美少年録
花も恥ぢらう美少年を中心として近藤勇を首領とする新撰組との大剣戟……火のやうな戀物語……

本年度蒲田超特作
原作小田喬 監督池田義信
主演栗島すみ子 島田嘉七 佐々木清野

夫婦
一人と一人……永遠の愛と信頼とによつて結ばれた二人と一人……世界がたつた一人と一人……それが夫婦である

日活超特作
鳥羽陽之助 尾上桃華
尾上桃華
尾上桃華

明暗道中師
影よ何を語る、明暗流轉の人生、天保の頃秋も立つ信州路にあふる涙の物語の幕が……

貸家
新川町十七
商店向(月十七圓)

中野勇吉

伊勢參宮
紫宸殿拜觀
奈良巡拜
遊覽團體開催
期……明春貳月貳拾日
費……廿九圓五拾錢
但し(申込と同時に金五圓を納入し(殘額は二月迄五回に分納の事

後援
警城新聞社
警城時報社
警城新聞社
警城時報社
警城新聞社
警城時報社

古流盛花教授
松望齋 吉田理秀
折入(每週日曜)
平町大町若松病院向いづみや方

筑前琵琶教授
吉田旭良
有山旭千師直門
平町大町若松病院向いづみや方

肺病助膜 専門藥
不パ錠
試用品の感謝と、好評なる賣行きとは其優秀なる効果を立證せり。
故に輕症期に於ける人々よ、直ち服用し以て一刻も早く健康体に復せよ。
則ち本品の現出は、病者を救ふに偉大なる福音なり。
▲説明書密送す、御申込あれ。

代理店
平町 山野邊藥局

松島名産
力キ貝 御料理
カキフライ
カキなべ
ス貝
洋式宴會
仕出し
電話一六七番

耳鼻咽喉科
平町仲田町七一
新築場所
合津醫院
電話五九五番

内科、小兒科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平五〇七番

和洋銅鐵
金物問屋
釜屋商店
電話一九三九番
確確實敏捷はの生命なり!!!